



Ferris University

2007 No.5

フェリス女学院大学同窓会会報



《聖句》

「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」

ルカによる福音書 6章31節

最近身辺記

理事長 小塩 節



打ちようがあるけれども、いったい何の病気なのかわからないのは困ります。癌の場合も部位によつて大変らしい。

— そんなことより、今、思いますのは、薬害のことです。世の中、実にたくさん薬品があり、さらに薬による薬害の問題が深刻です。薬が強ければ強いほど、害になる面も強いでしょう。つまり、副作用です。新聞、テレビなどで薬害の報じられない日はない、とさ言えましよう。一寸したミスでも訴訟問題になります。当然のことでもあります。

この春は、わが学院にもいろいろ苦しいことがあり、ようやく靑空が晴れたつたとは申せ、この春一か月で七キロやせました。あぐくのはてに、疲労のせいなのか、変な肺炎に罹り、ありとあらゆる抗生剤を投与されたのですが、ほんの二、三日はよくても、すぐまた悪くなる。ただ、肺炎特有の超高熱は出ず、八度位なので、フラフラとしながらも働き続けました。最後にわかつたのは、何とまあ、カンジダかびによるもので、両肺の下半分がレントゲンでは真っ白。結核のように人さまに感染しないことがわかつて、ほっとしました。

「カンジダ肺炎だと、老人は死ぬよな」と、お医者さんたちが言い合っている。ふつとこちらを見て、「この人、まだ老人じゃあねえなあ」ですと一まったく口が悪い。

さて、いろいろな薬を経験して思いますが、ある病気にどんぴしゃり効く薬を見つけ、それを効果的に病患部に撃ち当てるって、たいへんなことらしい。軽い風邪、あるいはインフルエンザのよつにすぐ病名原因がわかるものは手の

というわけで、信頼するよいドクターに、ほんとうにいい薬を見つけて出して撃ちこんでいただくのが大切です。

で、今春の私の場合は？ 抗生物質という抗生物質がすべて駄目で、副作用もありました。じつくり効いたのは、この場合は何と漢方薬でした！ 私事にて失礼。

「聞く楽しみ」

学院長 岡野 昌雄



ゴールデン・ウィークの終わりに、前任校で教えた卒業生たち数名が遊びに来ました。国立大学の助教授をしているK君一家

(奥さんと二歳の息子)、彼の友人で都立高校の教員をしている同じく卒業生のS君、K君の教え子のOさんとその友人のTSさんとTKさんという顔ぶれです。最後の三名は大学はそれぞれ違いますが、高校が一緒だったという友人同士で、今はれっきとしたOLたちです。私が教えたのはK君とS君、K君が教えたのはOさんだけ、あとはそれぞれ友人関係があるからというだけの面白い顔ぶれです。私が夏休みに信州で長い間続けていた合宿に、K君の紹介で彼女たちが学生時代に参加したのが始まりで、それ以来毎年我が家が集まり、十年以上の交流です。

妻が元気な頃は、張り切つて彼らをもてなし、彼らも遠慮なしに、来る前から奥さんのあの料理が食べたいとか注文していましたが、今は何の準備も要りませんからと

言つて、彼らがあれこれ持ち寄つて、私は場所を提供するだけです。楽しみは何といつても彼らの交わす会話です。彼女たちが学生の頃は、それぞれが学んでいる大学の話。彼女たちの通う大学のうち私が出講した経験があるのは一つだけです。同じく大学といつてもいろいろ違う裏話が聞けました。就職した今は、全員がまったく違う職場ですし、特に企業に就職した経験がなく大学しか知らない私にとっては、興味深い話ばかりです。

卒業後の進路が違つても大学が同じだと何となく共通の話題があるものですが、共通項が何もない彼女たちの話は私にとって新鮮な内容ばかりです。現役の大学教員時代も、訪れてくれる卒業生たちの話を聞くのは楽しみでした。自分の狭い世界が、彼らの話してくれる未知の世界につながつて広がる感じがしました。卒業生一人ひとりの付き合ひというだけでなく、彼らを通して自分の社会経験とか意識が形成されてきたように思います。加えて世代の違いということがあります。同級生たちも違う仕事をしていますので、それなりの興味深い話は聞けますが、同じ世代だけに、ものの見方が共通しているところがあります。しかし世代が違つと、同じことについても見方が違いますので、それだけ話の面白さが違います。このような楽しみを味わえるのはいつまででしょうか。

本学の近況について

学長 本間 慎



同窓生のみなさん、ご壮健でお暮らしのこととお喜び申し上げます。

さて、少子化が進行し、大学は全入時代に入り、日本の私立大学の4割は定員を満たすことができず、統廃合等進行している状況があります。本学は皆さんのご協力をはじめ教職員の努力により受験生も順調な経過をたどっています。昨年度は入学辞退率が予想より低く学生定員を十分確保することができました。

新入生は関東地方が全体の74%と圧倒的に多数ですが、中部9・9%、北海道、東北7・1%と受験生入学生ともに全国的な広がりを見せています。現役が87・8%ですが、志望別にみますと第1志望が31・8%、とくに注意しなければならぬことは第4志望以下が30・5%と1／3を占めていることです。これらの学生が本学で学んで卒業するときにはフェリスで学んでよかったという教育を私達は心掛けていきたいと思っています。

最近女子学生でも共学志向が多いといわ

れていますが、共学校へ行きたかったが、32・5%と多い中、女子ばかりだと気兼ね不要48・5%、異性の目を気にしなくてよいので集中して勉強ができる23・3%、女性だけの方が自立心が芽生える17・0%、しかし、同級生など周囲の視線を気にするようになる23・3%という意見もあります。これらの意見を参考にしながら「For Others」の建学精神にもとづいて自立した近代的な女性の育成につとめたいと思っています。

今年は娘さんが母親に大学の様子や授業内容をメールや電話で報告しているうちに母親も入学したくなり、受験して見事合格し、親子共学といったホットなニュースが新聞報道にもなりました。

就職については、就職希望者に対する就職内定率は99・1%で、卒業生に対するそれは75・1%です。大学院等進学率は約10%です。

就職のコース別では総合職44・4%、一般職26・8%、規模別では大企業47・9%、業界別ではサービス業29・6%、金融業24・1%、職種別では事務職29・1%、営業職18・0%といったところです。

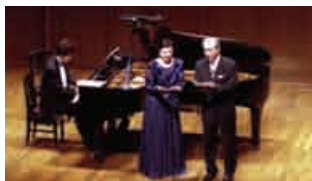
もちろん、大学は就職のためにあるのではなく、豊かな教養と人格を形成し、卒業後は社会人として、社会のために有為な働きのできる人材の育成にあるものと思っています。その視点に立って日々私たち教職員はつとめております。

募金コンサートの報告とお礼

フェリス女学院維持協力が主催者となり、全学院をあげて取り組んだ《モーツァルト生誕250周年記念・募金コンサート》は、昨年10月9日、山手のカイパー記念講堂で開催され、小塩先生の深い学識に裏づけされた楽しいお話と、心地よいコンサート内容で、満員の観衆を魅了して大成功をおさめました。多数の同窓会員、教職員が労力を提供し、募金にご協力くださいました。ご報告をするとともに、心より厚くお礼申しあげます。

プログラム

- I 小塩節理理事長による講演
「天地に響くモーツァルト」
- II 音楽学部教授陣による演奏
「モーツァルト名曲選」



(バリトン：渡邊明、ソプラノ：平松英子、ピアノ：黒川浩)

【入場者数】 955人 (定員986人)

【協賛企業数】 34社

【収益金】 4,595,714円

募金コンサート実行委員長

Fグループ会長 大谷 園子

維持協力会へのご協力をお願いします!!

同窓会の皆様の変わらぬご支援にはいつも心から感謝しております。フェリス女学院の将来を支えていくために、維持協力会への更なるご理解ご協力をお願いいたします。会員の方には中高及び大学の図書館利用、フェリスホールでのコンサートが半額になる等、他にもいくつか特典もございます。

会費だけでなく、ご寄付も受付けております。入会及び寄付申込、払込用紙・資料の請求他については下記問合せ先までご連絡ください。

《問合せ先》

本部事務局 維持協力会担当

Tel : 045-662-4511, 4503

Fax : 045-651-4630

E-mail : hsoumu@ferris.ac.jp

Fグループ・りてら・りべるて 合同総会

2007年4月30日・緑園キャンパスにて



第5回合同総会は、好天に恵まれた緑園キャンパスで開催されました。

はじめに、各同窓会がそれぞれの総会を開き、一同チャペルに移動し、大学宗教主任廣石望先生の司式により礼拝はとり行なわれました。

次に同窓会を代表し、りべるて金子会長よりご挨拶と、りてら田辺会長、Fグループ大谷会長の紹介がありました。

大学より本間学長のご挨拶をいただきました。今年度も受験生の大学教育に対する期待は大きく、志望者数の減少も少なく、更に合格辞退者が殆どないとの事です。また、環境問題は先ず女性からとの視点から様々な取り組みを行い、その中で、「新エネルギー財団会長賞」を受賞されたそうです。その他大学生活の中で将来を見据え、勉学に励む様子も伺うことができました。

続いて音楽部新卒業生による演奏を楽しみました。

最後に懐かしい校歌を歌いチャペルを後にしました。

場所を食堂に移しての懇親会では、小塩理事長による講演「子育て、孫育てを伺いました。先生の新刊『育児の不安はとんでいけ』よりの楽しく為になるお話でし



た。岡野学院長より、維持協力会募金コンサートのお礼と、学院全体のお話を伺いました。

軽食を頂きながら、ご来賓の先生方と交えなごやかな歓談のひと時を過ごしました。

来年は四月二十九日（火・祝）です。皆様お誘い合わせの上ご出席下さいますようお願い致します。



Fグループ総会

4月30日緑園チャペルにおいて、久保浩先生、堀由紀子先生をお迎えし、76名の同窓生が集いFグループ総会が開催されました。まず選挙管理委員長より3月1日の幹事会において会長選挙が行われ、大谷会長が再選されたとの報告がありました。続いて会長より、昨年10月の募金コンサートへの同窓会員の協力に感謝の言葉が述べられ、これから大学と会員とのパイプ役として活動して行きたい旨の挨拶があり、議事に入りました。

06年度会計報告、会計監査報告、活動報告、07年度予算(案)、活動予定が報告され、それぞれ承認されました。さらに各支部から活動報告がなされました。

引き続き学部長の久保先生からは、募金コンサートへの協力へ感謝の言葉をいただき、少子化の状況下にあっても大学が丸となってより良く発展して行く道を歩んでいることなどをお聞きました。

母校と音楽学部 の未来に希望と期待を持ちつつ閉会となりました。本年も皆様の同窓会活動へのご参加を、心よりお待ちしております。 (報告 般若須美子・30回)



第23回 りてら総会

日時 4月30日
於 8号館大会議室

来賓 文学部 渡辺浪二先生
国際交流学部 馬橋憲男先生

今年のりてら総会は、旧役員三人に新役員四人を加えて始まりしました。田辺会長のご挨拶の後、四月七日の幹事会で承認された事業報告、決算報告、シヨップ会計報告、今年度予算案などがそれぞれ報告されました。又、昨年、広場に寄贈されたハンカチの木の紹介もされました。遠くは神戸から、そして愛知フェリス会

の方々のご出席もありました。来年はもっと良い企画で皆様をお迎えしたいと思ひます。たくさんの方々の御出席をお待ち申し上げます。

(報告 大矢節子・71J)



第18回 りべるて総会

去る4月30日(月) キターホールにて総会が開催されました。

初めに、金子会長より挨拶と、昨年行われた「維持協力会募金コンサート」に際し、チケットを購入して頂いた多くの会員の皆様への感謝と収銀金を学院へ寄付する事。学院と同窓生が一つになって大成功に終わったとの報告がありました。また、例年行われているバザーや講習会。来年、りべるてに改組され19年を迎えるため、皆様に楽しんで頂く企画を考えているとのお話がありました。

ご来賓の友井先生からは、愛する家政科の皆様が、一生懸命家政科を愛し、同窓会を盛り立てて下さっている事を幸せに思う。同窓会を育てて下さった、高野先生、足立先生、意思を継いで下さった奥山先生、五十川先生に不思議なお導きを感じている。会を支えて下さった同窓生の幸せをお祈りしているとお言葉を頂きました。

古川先生からは、自分の人生の中で一番輝いていた時代だったと感じている。これからの日本の中心的底力は、子育てから離れた佐藤の世代。活躍を楽しみにしていると励ましのお言葉を頂きました。

議事に入り、2006年活動報告、決算報告、会計監査報告が承認されました。引き続き2007年活動計画(案)、予算(案) について審議され承認されました。

今年の主席有任状を授けられた1459名でした。この総会が皆様の交流の場になればと役員一同願っております。今年も、総会が無事終了しました事を感謝と共に報告致します。

(報告 岩江眞理子・D51)



音楽学部新卒業生演奏

*ソプラノ独唱

ピアノ 松本 真代
原田 裕子

●金子みすゞ 作詞

中田喜直 作曲

「ほしとたんぽぽ」

●ロッシニ 作曲

セヴィリアの理髪師

より「今の歌声は」



二〇〇六年度 卒業式

同窓会では、今年、

●文学部 274名 ●国際交流学部 223名

●音楽学部 91名 ●大学院 36名

の卒業生をお迎えすることができました。



同窓の輪の広がりを

音楽学部長 久保 浩



心地よい日だまりのある4月末の緑園キャンパス、Fグループの同窓会総会に出席して、昨年度と変わらず、同窓会会長、役員の方々、そして遠路いらした支部長はじめ皆様と懇談の場を得られ印象深い半日でした。卒業生としてお忙しいなか活動を続けていく難しさを超えて、同窓の輪を広めていかれる様子を聞かせていただき、これから卒業して行く若い学生も、

35歳を迎えたFグループ

Fグループ会長 大谷 園子（11回）



Fグループの皆さま、お元気でいらつしやいますか。同窓会報でご挨拶申し上げるのも4回目となります。3月の幹事会で再任され、もう1期3年、会長の役をお預かりすることとなったからです。皆さま、同窓会活動にいまいつそうのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

今年はFグループが発足して35年目になり

そのあたりを十分理解して、受け身ではなく積極的に参加していく雰囲気が必要であると感じた瞬間でもありました。

大学としては少子化のなかであって、フェリスの音楽教育を盛り上げていただく事に感謝すると同時に、学生を送り込んでいただく広報の大切な要件の一つとして、卒業生の皆様に依存するところ大であるとの認識をも新たにしました。

音楽学部になって20年になろうとしています。総合大学の1学部という魅力的な存在のなかにあって、文学部そして国際交流学部にも支えられつつ、音楽学部として財政的な節減の努力をしながらも、エビストラの記事などでもたびたびご紹介していますように、音楽芸術学科、

ます。フェリス女学院に音楽専攻の学科が生まれたのは1947（昭和22）年ですが、卒業生は全学同窓会「白菊会」に属していました。1972（昭和47）年、音楽学部・学科卒業生は白菊会の内部にはありますが、「Fグループ」の名称のもと、独自の同窓会活動を立ち上げたのです（正式の独立は1983年）。

For Others 精神のもとに音楽を学んだ者が、世代や地域を超えて互いに交流し研鑽する、と同時に母校と音楽教育の発展のため他のフェリス同窓会と手を結んで貢献する―そのためのしっかりとした基盤が生まれたのは意義深いことと考えます。

そして、昨年の「モーツァルト生誕250

演奏学科それぞれに特徴的に発展・充実しながら、活発に演奏・教育の展開が継続できたことに、大いに感謝したいところです。更に今後どのように発展していくかは、教員の音楽学部への強い愛着と、学生との信頼関係・熱意のある指導が引き続き行われていくことで、新しい展開が開けてくるものと信じています。

山手キャンパスの5、6号館の建物も1970年に建ちましたので、そろそろ40年近くとなり、次のステップを考えなくてはならない時期に来ております。総会でも触れさせていただきましたが、皆様には今後とも引き続き音楽学部への強力なご支援をいただければ大変にありがたいことです。

周年記念・募金コンサート」の成功にも、Fグループは大きな力を発揮しました（詳細は別紙「報告」参照）。実行委員会の中心となった役員たちの働きもさることながら多数会員が切符を買い、労力を提供し、募金してくださいました。あらためて深くお礼申し上げます。

むろんFグループにとっては、独自に企画する秋の3音楽会（ジョイント・コンサート、研修会、ティータム・コンサート）も、新旧会員の交流研鑽をはかる大事な年間事業です。ほかにも同窓会の仕事は多岐にわたりますが、さいわい、新役員会には従来のベテランに加え、有能な若手が多数参加してくれましたし、各地方支部にも人材がそろっております。全国の会員の皆さま、どうか協力くださいますように。

2007年 音楽の贈り物

ジョイントコンサート

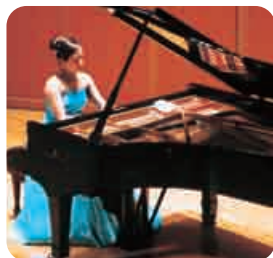
06年9月18日 フェリスホール

2006年のジョイントコンサートは、9月半ばの初秋というよりまだ夏の余韻が残る天候のなか開催されました。

この日は、複数の声楽およびピアノのソリスト達による素晴らしい演奏が披露されました。各々の方が個性溢れる演奏をされ、場内は大学の先生方をはじめ大勢の聴衆の皆様により、大いに盛り上がりしました。

毎年開催されますこうしたコンサートで、多くの卒業生の活躍ぶりを

知ることが出来るというのが、同窓生として大変大きな喜びです。



本年度もフェリスホール

で予定されており、皆様どうぞ楽しみになさってください。お一人でも多くの方のご来場を心よりお待ちしております。

【出演者】*山形明子（ソプラノ独唱・55回）・御園生瞳（ピアノ伴奏・52回）*原野秀子（ピアノ独奏・54回）*花井梨江（ピアノ独奏・52回）*早川満理（ピアノ独奏・50回）*荒川美江

（ソプラノ独唱・46回、院1回）・西村泉（ピアノ伴奏・46回）*樋口かおり（ピアノ独奏・44回）（担当 上月早苗・23回）

◆ジョイント・コンサート出演者募集

毎年9月開催予定のジョイントコンサートはFグループ会員、音楽学部関係者であれば出演可能です。詳細は事務局までお問い合わせください。（書類選考あり）

例年10月に開催されております研修会は、2006年度は行われず、かわりに学院維持協力会主催「モーツァルト生誕250周年・募金コンサート」の成功に向け、役員は全力で協力いたしました。



ティータイムコンサート

06年11月9日 山手6号館632教室



今回のティータイムコンサートは、オペラハウスチューリッヒに合唱団員

（国家公務員）として所属されていらつしやる、スイス在住の井田芳子さん（37回）をお迎えしました。当日は同窓生をはじめ、多くの方々に越えいただきました。

演奏には井田さんのパートナー、テノールのトーマス・ピュッツさんに賛助出演してい

ただし、小倉一美さん（30回）にピアノ伴奏をお願いしました。

歌詞の発音が素晴らしく、また二重唱は演技つきで情感たっぷりな歌われ、本場のオペラハウスで活躍されている様子がうかがわれる演奏に拍手が沸き起こりました。

また公務員でいらつしやる井田さんのオペラハウスでの仕事や舞台裏の話などに、皆様聞き入っておられました。

その後、井田さん、トーマスさんを囲んで、井田さんがスイスからお持ち下さったフレイバーティーとカフェテラスフェリス（6号館食堂）のケーキでティータイムのひと時を過ごしました。

（担当 清水千晴・52回）



Fグループ2007年度 コンサートのご案内

ジョイント・コンサート

9月24日（月・祝）14:00開演

於：フェリスホール ￥2,000

【出演者】

ピアノ：川村よしみ（38回）・小野いずみ（51回）

大橋雅子（43回）

ヴァイオリン：梅田みお（56回）

声楽：堀部敦子（56回）・池田まゆ子（53回・院8回）

研修会 小さな星 はるかな空

武久源造氏によるオルガン等の演奏とお話

～ソプラノ船室久美恵さんと共に～

10月8日（月・祝）14:00開演

於：フェリスホール ￥1,000

ティータイム・コンサート

11月8日（木）14:00開演

於：フェリス女学院大学山手632教室 ￥1,000

内容：未定

講師：白井貴子（31回）

～白井貴子氏プロフィール～

'81年CBSソニーよりデビュー。NHK「ひるどき

日本列島」他、CM、ラジオ等で活躍。

'07年、神奈川県初の環境大使に任命される。

《お問い合わせ・お申し込み》

Fグループ事務局（木曜日 10時～17時）

Tel & Fax：045-681-6740

Fグループ会長選挙報告 大谷園子さん（11回）が再選

昨年の同窓会総会において、任期満了に伴う次期Fグループ会長選挙のための選挙管理委員会が立ち上げられました。

会長として相応しい方を推薦していただくよう皆様をお願いしておりましたところ、前会長の大谷園子さんお一人が5人の方々の推薦をうけ立候補されましたので、去る3月1日（木）、学年幹事会において信任を問う選挙を行いました。▼総数 30票 ▼信任 29票 ▼白票 1票（白票は信任とみなす）▼委任状53通。以上の結果、計83名の方々の賛成をいただきました。

Fグループの会則に従い、過半数票をもって信任されました大谷園子さんが再選となり、引き続き会長として活躍していただく事になりました。

（選挙管理委員長 田口妙子・7回）

新役員紹介

会長 大谷園子(11回)
副会長 森 康子(25回)・小林周子(29回)
書記 小倉一美(30回)・般若須美子(30回)
会計 小西和代(22回)・佐々木淑子(36回)
企画 海野美栄(44回)・井上千佳子(44回)
清水千晴(52回)
会報 小島レイリ(52回)・澤田真美(52回)
常任 小林真理子(21回)
木村則子(22回)
宮崎奈穂子(47回)
土屋友紀(48回)
中田幸子(9回)
井上眞記子(22回)
事務局長 木村あづさ(43回)



支部だより

北支部

杉田 知子(31回)

6月9日、フェリス女学院大学同窓会北支部主催の「バロックダンス講習会」が開催されました。

終了とともに「ブラボー」の声と、たくさんさんの拍手。気持ちはバロック時代にタイムスリップ、ステップの一つ一つに目に見えない内容がギッシリと詰まっております、現代社会が見失ってきた大切な事が思い起こされました。メヌエット・ブーレ・ガヴォットなど、音楽を演奏する上での意味を体で感じ、当時の人となって、ダンスと音楽の融合を味わいました。ご指導ください

した浜中先生、ありがとうございました。

フェリス卒業生ならでは大切な時間をつくるお手伝いを、今後もさせていただきますと思います。



中部支部

支部長 牛込 まり(25回)

昨年の秋は、三宅春恵先生が亡くなられて1年であり、大橋多美子先生のご提案もあり「三宅洋一郎先生、春恵先生を偲んで」というタイトルで演奏会を持ちました。たくさんさんの門下生が出演を快く引き受けてくださり、良い演奏会になりました。その演奏会に出演してくださった伴野さち子さん(21回)が4月に亡くなられ言い知れぬ寂しさを感じています。

今年の秋は小塩節先生をお迎えしての講演と、合唱やデュオの楽しい会を予定しています。小塩先生のファンがまた増えるでしょう。

今年度のふれっしゅ・コンサートは、始まって以来の出演者の少なさです。卒業すると良いホールでの演奏や高校の先生方に聞いていただく機会が少ないので残念です。出演



の意義をうまく卒業生に伝えていければと思います。

関西支部

支部長 柴田 美和子(21回)

京阪神地区だけでなく、滋賀、奈良、和歌山を含む近畿全域、そして中国、四国地方に於いても、それぞれの場所に根を張って活動する同窓生が増えています。今年は中国、四国地域の方たちとの出会いを期待して、4月12日に岡山県の倉敷で最寄り会的な支部会を行いました。

お互い初対面も多い12名の出席者は、新緑の芽吹きで一段と美しい美観地区内で会食、そして散策しながら古い蔵を改造したサロンに移動してティールタイムコンサートと、年齢差を超えて楽しい時間を過ごしました。

この時の出会いから、野中有子さん・前田佳代さんの地元でのジョイントコンサートを岡山在住の同窓生が応援し、感動して心からの拍手を送ったという嬉しい後日談もありました。

各々の活動を認め合い、信頼・協力関係の築ける支部を目指していきたいと思っています。

九州支部

支部長 安波 裕子(24回)

新役員でスタートしました九州支部では、5月8日ラファエル・ゲラ氏のコンサート、9日公開講座及びレッスンを行いました。コンサートは先生の美しい音色に

酔い、素晴らしい演奏でブラボーと大喝采でした。

公開講座はピアノに向かう姿勢と呼吸、基本的な大切な話から、タッチ・奏法と技巧的な説明があり、バッハのメヌエットの演奏上の解釈がなされた後、武田牧子氏(奥様)によるメヌエットのステップをご指導いただきました。公開レッスンもあり、2日間有意義な一時を過ごす事ができ嬉しく思っております。

今秋には総会と演奏会を予定しています。また、新しくボランティアコンサート、訪問コンサート、演奏会等々取り組みが始まりました。

“FOR OTHERS”を尊重し大学と同窓会のお手伝いが出来る事を願っております。



フェリス音楽教室

こどもたちとともに50年

<緑園教室>

生徒募集(3歳から53)

・ソルフェージュ科(クラス授業)

・実技科(個人レッスン)

ピアノ
ヴァイオリン
チェロ

見学・入室 随時

毎週土曜日音楽学部校舎にて

お問い合わせ(土曜日のみ)

045-813-1070

<http://www.ferrismusicinst.org>

<山手教室>

受験科体験教室 生徒募集

～音楽学部推薦入試に向けて～

日時: 2007年9月1日

場所: 山手校舎5号館

高3以上

15:40～18:40

高1・高2

16:50～18:30

お問い合わせ

須藤多恵子(29回)

03-3966-1378

9月1日以降(土曜日のみ)

045-212-2396

2006年度会計収支報告

＜収入の部＞

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額
終 身 会 費	4,000,000	4,000,000
研 修 会 会 費	100,000	0
ティータム会費	30,000	37,000
ジョイントコンサート	280,000	292,000
宛 名 シー ル	15,000	33,100
雑 収 入	50,000	61,007
小 計	4,475,000	4,423,107
前年度繰越金	2,498,081	2,498,081
収入の部 合計	6,973,081	6,921,188

＜支出の部＞

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額
(1)運 営 費	1,320,000	911,123
会 議 費	30,000	6,627
印 刷 費	60,000	50,889
通 信 費	10,000	32,407
人 件 費	400,000	343,820
交 通 費	80,000	28,140
事 務 費	50,000	59,528
出 張 費	60,000	58,630
交 通 費	330,000	277,500
学 年 幹 事 会 費	70,000	53,582
特 別 委 員 会 費	30,000	0
予 備 費	200,000	0
(2)活 動 費	3,150,000	2,069,269
総 会 関 係 費	550,000	475,405
研 修 会 関 係 費	350,000	151,352
ティータム関係費	130,000	111,526
会 報 関 係 費	750,000	555,388
ジョイントコンサート	320,000	234,718
リサイクル後援費	100,000	50,210
支 部 関 係 費	550,000	417,090
慶 弔 関 係 費	200,000	73,580
予 備 費	200,000	0
(3)諸 会 費	370,000	370,000
連絡会維持費	70,000	70,000
維持協力会費	300,000	300,000
(4)積 立 金	750,000	750,000
名 簿 積 立 金	50,000	50,000
積 立 金	700,000	700,000
(5)予 備 費	1,383,081	0
支 出 合 計	6,973,081	4,100,392
剩 余 金		2,820,796
支出の部 合計		6,921,188

監査の結果、妥当かつ正確であったことを確認しました。

Fグループ会計監査

熊本 美也子

有坂 緑

from
once a student

卒業生だより

友人が運転する車の中で、デイトリッヒ・ブクステフーデのCDを聴きながら夏の休暇が話題になる。今年はこの北ドイツ音楽派巨匠没後300年とあって、カンタータやオルガン曲を聴いたり、自分で演奏する機会が多い。

35年もの間、リュートベックにあるマリエン教会で教会音楽に貢献したブクステフーデは、毎日曜、朝礼拝と午後の礼拝そして夕べの音楽を企画し演奏した。当時稀な高収入を得た音楽家で、引退の時、後任を彼の未婚の娘と結婚する事を条件に探していたところ、ヨハン・マッテンやG・F・ヘンデルもこの職に興味を示したが後継者にはならなかった。J・S・バッハもアルンシュタットからリュートベックまで行くために休暇を取って、ブクステフーデの華やかな装飾法、豪放

なベダル奏法、大胆な不協和音採用などを学び取り帰っていった。一つの職を継ぐのも時と条件が必要なのであるのか。

日本人のオルガニストとして、私は人生の半分をスイスの教会で務めてきたが、その資格があるかと問う事が度々ある。教会が博物館になりつつある現在のヨーロッパの状況からも言えるように、宗教音楽を聖なる場所での信仰を共にした仲間と祝う習慣が失われている。



イエズイッテン教会の前にて。礼拝で共演しているパロッククアルテットのメンバーと。

学年幹事会

07年3月1日 山手6号館632教室

出席人数35名。06年度一般会計収支報告及び会計監査報告、07年度の一般会計収支予算案報告が行われ、承認を得ました。

各役員の活動報告に引き続き、「同窓会名簿の発行について」が審議され、検討続行となりました。次に昨年度発足した選挙管理委員会による会長選挙が行われました。最後は自由討論にて有意義な意見交換が行われ、閉会となりました。

(報告 小泉紀久江・46回)

『山手の丘に音楽誕生』

創設の苦難の時代から40年余にわたる音楽科の歩みに90年音楽学部発足からの10年間を追補。各年のデータベース付。まだお持ちでない方にお勧めの一冊！ご希望の方は事務局まで。

(1冊...2000円)



おめでとうございます

犬飼久美子さん (49回)

万里の長城杯国際音楽コンクール優秀賞受賞されました。

向坂由美子さん (44回)

御園生 瞳さん (52回)

2006年11月15日
第1回ピアノ歌曲伴奏コンクール優勝されました。

Fグループ事務局 木曜日10時〜17時

◆住所・電話・姓の変更 旧姓・整理番号(宛名ラベル右上にある7桁の英数字)と一緒にお知らせ下さい。

◆慶弔 同窓生、先生の慶弔をご一報下さい。

◆山手校舎6号館632教室の貸出し、宛名ラベル印刷、演奏会の後援を行っております。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

電話・FAX (045) 681・6740
E-mail: f-group@ferris.ac.jp

フェリス学院維持協力会募金箱についてご報告

Fグループ催しの折、設置しております募金箱より計4,100円を2月8日、維持協力会へ送金しました。ご協力頂きありがとうございました。

Fグループ会報編集

澤田 真美 (52回) 小島レイリ (52回)

当 今 学 生 考



学生部長 大野 英二郎

さか狼狽いたしました。浦島太郎もこんな気持ちであつたかと思われ
ます。

教師を続けていると、四月にな
って新入生を迎えるのも、いつし
か当たり前のことのようになるも
のですが、今年は少し事情が異な
りました。一つは学生部長として
様々な新入生歓迎行事に関わった
ため、もう一つは入学した学生の
多くが今年から平成生まれになっ
ていたためです。私とて昭和が終
わったことを忘れたわけではあり
ませんが、年号が変わったのが新
年早々だったこともあり、それが
何年まで続いたのか、記憶する機
会を逸してしまいました。したが
って平成についても心許なく、い
まだに何年であるのかがよくわか
りません。覚えたと思うと、すぐ
に変わってしまうような気がしま
す。それゆえ平成生まれの学生を
目の当たりにしたときには、二十
年になんなんとする歳月を一挙に
見せつけられた感じがして、いさ

自分の人生の中で、生活を一変
させたモノは何ですか、という質
問を授業の合間に学生にすること
があります。それぞれが生きてき
た歴史的時間の中に「ランドマー
ク」のようなモノがあるのだらう
か、自分の人生を区分する目印の
ようなモノがあるのだろうかとい
うのが質問者の関心です。高度成
長期に物心のついた世代にとつて
は、たとえばテレビの出現、新幹
線や高速道路の完成などが新しい
時代の開始を告げているように思
われました。しかし後続の世代に
とつては、生まれたときからテレ
ビは「天然色」で、新幹線になぜ
「新」の字がついているのか不可
解、高速道路は四通八達している
のが当たり前でしょう。数年前に
たずねたときには、携帯電話を持
ったこと、それによって生活や人
間関係が変化したとの答えでし
た。しかし平成生まれの新入生に
とつては、もはや幼い頃から生活
の中に携帯電話が入り込んでいた

のではないでしうか。人間関係
の形成も、さらには自身の人格形
成さえ、その小さな装置に大きく
依存していたかとも思われます。
つまりモノに限って言えば、彼女
たちにとっては何か革命的な遭遇
があつたということはなく、その
生きてきた歴史的時間は案外のつ
べりとして、つかみ所のないもの
のように観察されます。実際こち
らの質問の意図を理解してもらう
のに苦労いたしました。人間関係
についての基本的な感覚や感受性
において彼我の間に大きな違いが
あるのは当然でしょう。

大学でも危機管理などというこ
とが叫ばれるようになって久し
く、学生部長となつたがために、
節をまげて携帯電話を持たざるを
えなくなりました。電話や仏壇な
どというものは黒光りして、家の
奥の方に鎮座ましましてから
こそ有り難いのだと信じておりま
すから、これは生活の一大変化で
した。しかしこの道具が自分の人
生のランドマークになるという予
感は今のところ、幸いなことに、
ありません。

二〇〇七年度役員



会 長	田 辺 真弓	E 72
副 会 長	松本世以子	J 71
〃	酒井 篤子	E 62
〃・会計	小保川陽子	E 74
書 記	鈴木 裕子	E 72
〃	大 矢 節子	J 71
〃	大 関 公子	E 74
会計監査	出口 洋子	E 70
〃	坂井 久子	E 62

りてら同窓会室から



会長 田辺 真弓 (72 E)

第24号りてら会報をお届けいたしましたと同時に、新役員会から皆様にご挨拶申し上げます。この会報を通して、全国に広がる同窓生の方々が母校フェリス女学院大学で学ばれた日々を懐かしく思い起こしていただければ幸いです。

本年四月の総会は無事終了し、総会後の懇親会ではご遠方から駆けつけてくださった方々と共に、世代を超え時間を忘れてお話しすることができました。この場に集うことのできなかった方々も十一月のフェリス祭に、ぜひいらしてください。このキャンパスを見ただけならば、学生たちの持ついる可能性を最大限引き出すにふさわしい場であることに気付いていただけのことと思います。また、私達が学んだあの頃と変わらない、温かく優しい空気を再び感じることができるといいでしょう。

大事なものは、変わっていくこと、変わらざること。進化していくキャンパスと共に、時を隔てても変わらない大切なものを次の世代にずっと受け継いでいくことが、同窓会の役割ではないでしょうか。

昨年、りてらから大学にハンカチの木を寄贈させていただきました。図書館脇の芝生に植えられたこの木は、中国の山地原産の花木で、伝説によると昔皇帝の美しい一人娘と親しくなったひとりの青年が、それを知った皇帝に殺されて一本の木となり、そしてその木に取りすがって泣いた姫の魂がハンカチの木になったということです。白い大きな2枚の花びらが真白いハンカチに似ていることに由来する名前だとのこと。そして花をつけるまでにはなんと10～15年もかかるそうです。

太陽の恵みをたくさん受け、時には強い雨や風を受けながら、十数年後に美しい花を咲かせるその時のために、土の中でゆっくりしっかりと根をはっていくハンカチの木のように、私達も母校フェリス女学院を見えないところでしっかりと支えつつ、さらなる学院のご発展を静かに見守っていけたらと願っております。

りてら 2006年度決算報告

(2006年4月1日～2007年3月31日)

収入

項目	決算
終身会費	16,770,000
預金利息	27,219
雑収入	143,994
小計	16,941,213
前年度繰越金	28,215,523
合 計	45,156,736

支出

項目	決算
事務用品費	101,762
印刷費	141,603
会報関連費	3,451,998
総会関連費	1,552,887
通信費	221,269
給交通費	1,398,870
雑手数料	453,930
パソコン関連費	107,640
会議代	8,859
卒業記念品	368,544
際品	261,862
備品	873,600
リース	42,100
フェリス祭会費	10,980
維持協力	8,641
名簿関連	1,972
モータルト関連費	2,000,000
小計	0
来年度繰越金	302,320
合 計	11,308,837
	33,847,899
	45,156,736

決算報告

2006年度 フェリスショップ会計報告

(2006年4月1日～2007年3月31日)

収入	
ジャパンビレッジ販売部	779,544
フェリスショップ(緑園)	1,343,130
通 販	246,610
白菊・りべるて他	336,115
利 息	1,262
小 計	2,706,661
繰 越 在 庫	1,112,131
前年度繰越金	2,352,062
合 計	6,170,854

支出	
小 林 紙 工	816,070
ワールドアイ・丸加	904,638
振込料・エリスバッグ他	21,983
合 計	1,742,691
来年度繰越金	4,428,163

りてら資産

定期預金	70,000,000
------	------------

監査の結果、適正なものと認めます。

監査 出口 洋子
春日井 節代

新製品が出来ました。 — りてらショップ —

りてらショップでは、只今約30種のグッズを販売しております。これまでに23品のオリジナル商品を開発し、学生の皆様をはじめ同窓会会員の皆様にも大変好評でご愛用いただいております。

今年は写真のようなトリロジースタイルのネックレスを開発いたしました。過去、現在、未来を表現し、シルバー、ゴールド二種類をご用意致しました。

お求めいただいた商品代金の一部は、

同窓会活動や母校への寄付等有意義に使われております。

商品ご希望の方は、同封してあります「フェリスグッズのご案内」をご覧の上お申し込み下さい。皆様のご利用をお待ちしております。



¥3,500

担当 松本世以子 (71 J)

卒業生紹介

◆ 毎日が日曜日の過ぎし方

金子 のぶ (53 E)

私は、この五月で、三期九年務めた学院理事を退任しました。この間、学院の運営に関わる事項の審議を通して、貴重な経験をする事ができたことを感謝しております。

振り返ってみると、同窓会選出の理事でありながら、同窓会役員の皆様の献身的なお仕事には何も参加できなかったことを、大変申し訳なく思っております。

私は、短大英文科を卒業後クリスチャンスクールでもある女子大で心理学を学び、裁判所職員として定年まで働きました。い



まは年金生活の身ですが、まだいくつかの仕事に就いておりますので、いわゆる「毎日が日曜日」の状態ではありません。しかし、公務員としての職務から解放されて十五年が経ったいま、自分が一番享受してい

るものが何であるかを考えてみると、それは、日曜日を自分の願いのままに過ごすことができるといふことのように思えます。日曜日を単身赴任先との往復に充てることを余儀なくされていたときにはできなかった過ごし方が、今はできるのです。

私の場合は所属する教会の礼拝に出席できることを意味しますが、この年齢になっても自分の成長のために日曜日を充てることのできるのには、嬉しいことです。

これも、半世紀以上も前にフェリスの寄宿舎生活で与えられた恵みの日々のおかげであることを、このごろ、つぶさに感じております。

愛知フェリス会

◆ 近況をご報告いたします

岡田 郁子 (85 J)

愛知フェリス会は県下の皆さまとともに6年間歩んでまいりました。近況をご報告いたします。

第5回の集いには、日本紅茶協会認定ティーインストラクターの岡本陽子さん(旧姓松尾さん・93 K卒)を講師に迎え、紅茶セミナーを開催いたしました。秋も深まったある日の午後、温かい紅茶と美味しい焼き菓子を楽しみながら、お茶の入れ方・茶葉についての基礎知識を学びました。実用面もさることながら、この

ひと時のティータイムを通して身も心も豊かに温まるよい時間を皆さまと共有できました。講師の岡本さんは現在、各種専門学校講師、紅茶関連メーカーイベント講師として当地にて活躍なさっております。

第6回には、尾張徳川家ゆかりの徳川美術館において「聞香講座」を体験いたしました。参加者の多くが初心者でしたが、ご指導くださった美術館の先生方にとってもわかりやすく香の道の扉を開いていただきました。静寂の中で、ただ香りを聞くことにのみ心を傾け、一片の香木の幽かな香りを深く観賞し、日本の伝統

文化に触れる素晴らしい機会でした。

愛知フェリス会は、今後も総会と併せて小さな催しを企画しご案内させていただきます。どうぞお気軽にご出席ください。お待ちしております。お願い申しあげます。



りてら会員の皆様へ

*「人事新報社」からのながき等に「ご注意ください」。

最近「人事新報社」と称するものから「フェリス女学院大学同窓名鑑」なるものを発行するとのながきが、同窓生各位に送りつけられていることが判明しました。本件に関しましては、次のとおりです。

- (1) 大学及び全ての同窓会は、この「人事新報社」とは全く無関係です。
- (2) 大学及び全ての同窓会は、個人情報保護の観点から現在名簿の作成は行っておりません。

督促の通知が届くような場合もあるとも聞きますが、一切返信の義務はありません。ながきへ返信された場合、「りてら」としては責任を負いかねますので、ご注意ください。

また、記されている電話・FAXへの問合せは、かえって個人情報流出させることになりかねませんので、充分にお気をつけ下さい。

講習会の御案内

【実用書道】

毎月第二火曜日

【フラワーアレンジメント講習】

十月十三日 午後一時

*受講御希望、詳細については、同窓会室にお問い合わせ下さい。

りてらアーカイブ

前号より始まりました懐かしくフェリスに想いを馳せるページです。

今回は八年間のフェリスでの教鞭を終えられた後、現在オープンカレッジの講師を勤めていらっしゃいます川西進先生のご登場です。

「受胎告知」とフェリス

今年の春、東京、上野の国立博物館で、フイレんツエにあるレオナルド・ダヴィンチの「受胎告知」の絵が展示されました。多くの人が見に行かれ、それぞれにさまざまな感想を持たれたことでしょう。私の受けた感動は、なぜかフェリスの大学に在職していたときの記憶を喚び起こすものでした。ダ・ヴィンチが描くマリア像が、教室での学生さんの態度を思い出させたのに始まって、天使ガブリエルが訪れた庭は、山手の十号館の前の芝生、そして庭垣の向うに居すまいを正している木々は、十号館の窓から見える木立、画面の右手、遠景の海に

点々と浮かぶ帆船と高い塔の立ち並ぶ港町は横浜、さらにそれより向う、たなびく雲より高く、うつすらと、しかしどっしりと聳え立つ山は、緑園キャンパスから望み見る富士の姿に通じるとさえ思ったのでした。

ご存知のように「受胎告知」の絵は「ルカによる福音書」にあるマリアと天使ガブリエルとの対話を基にしています。それを題材として、たくさん「受胎告知」の絵が描かれてきました。なかでも有名なのは、同じフイレんツエにあるフラ・アンジェリコの壁画でしょう。「この敬虔な一幅の画は教巻の注解書にまさって、受胎告知の意味を啓示する」とも言われました。



【川西 進 先生 略歴】

- 1931年生。東京大学、アーモスト大学卒、ブラウン大学大学院英文科、東京大学大学院英文科修士課程修了、同博士課程中退。
- 1962年横浜国立大学講師（英語、英文学担当）
- 1963～66年同助教授。
- 1966～81年東京大学教養学部助教授。
- 1981～92年同教授。
- 1992～2000年フェリス女学院大学文学部教授。
- 2000年以降、同オープンカレッジ講師。

同じことがダ・ヴィンチの絵についても言えるのではないのでしょうか。啓示される意味はアンジェリコとは違うかもしれませんが、それは「受胎告知」の持つ意味がそれだけ豊かだからでしょう。聖書に記されたこの由々しい出来事は、何時の世にも、誰にでも起こることに関わるものでした。

体を見守り、そこにあるすべてのものに存在の意味を与えているようでした。それはマリアの「受胎告知」の受け留め方を啓示するものでもありました。男を知らぬ私が身ごもるとはどういうことか、という極めて身近な、個人的な問題に驚き、怖れ、心を乱されたマリアは、天使の御告げから、まわりの社会全体、人間の歴史全体を見る目を与えられ、やがてマリア自身が歌うように、これは救い主イエスをこの世に遣わすためのこと、そのために、私のようなはしためを用いてくださるのだと、人類の歴史にかかわる使命を喜んで引き受けたのです。

「受胎告知」の絵が私にフェリスの思い出を甦らせたのはそのためかと思っています。ダ・ヴィンチの絵を近くから熟視して驚いたのは、綿密な細部描写でした。天使とマリアの頭髮は一本一本波打ち結われるさまが描かれ、衣服の複雑な襷は克明に辿られ、庭の花、床の石肌、石台の模様、書見台上の本の文字など、まるで接近撮影写真のように描かれています。それと明らかにコントラストをなすのが、それらの向うに見える整然とした枝振りの木々の風景であり、その遥か先には幾つもの丘、さらに遠くには海、海の彼方には霞の中に山が聳え立つといったパノラマが展開しています。

例えば、フェリス在職中の私の最も嬉しい思い出も、「受胎告知」を受けたマリアのように、個人的には理解も想像もできなかったことを、一生の大切な使命として受け留めるようになる学生さんたちの姿でした。

これらのさまざまな近景、遠景にまともな与えるものが、全体を一点に収束する遠近法でした。その一点は画面のほぼ中央、空気遠近法によって薄い色で描かれた遠い山の中腹より少し下あたりででしょうか。その一点に収斂する遠近法の線上で、近くにあるもののきめ細かな佇まいから、遠くに霞む丘、海、山に至るすべてのものが、各々の場を与えられ、その一点から発する光によってそれぞれの存在が照らし出されているように見えるのです。それはあたたかもその一点から、見えざる神が風景全



りべるて

Vol.19

日々の活動の中で

会長 金子 和恵



りべるて会員の皆様、お健やかに過ごしていらっしゃいますか。

今年も会報をお届けできます事は、寄稿並びに編集にご尽力下さいました方々のお陰と厚くお礼申し上げます。

4月30日の総会にご出席下さいました友井先生のご挨拶の中で「りべるてを思う多くの同窓生は、家政科が幕を閉じてから更に同窓会を盛り立てようとしている。そして、Dクラブ（頭文字のDは家政学のdomestic scienceより）がりべるてに移った歴史を思うと見えない力を感じる。」とお話下さいました。

また、古川先生は『家政科の卒業生は

家庭を大切に過ごしている。』とお話下さいました。これらのお話は、りべるての活動をする時にも感じます。総会の返信葉書にお書き頂く近況欄で、一番多い事は、ご家族の介護をしていらっしゃる事です。もちろん子育て中の方、また、お孫さんのお世話をされている方もいらっしゃると思います。この会報を何より楽しみにされて、フェリスで過ごした青春時代を思い出し、何度も読み返されて、そしていつか、山手の家政科記念館を訪ねてみたいと思っていっぱいいます。短大の2年間はとても短く、勉強も忙しかった訳ですが、家政科で学んだ事や、沢山のお友達に出会えた事を財産として過ごされています。会員の皆様のご期待に答えられる様に活動を続ける事が、同窓会の使命であると考えております。

昨年10月に行われた維持協力会募金コンサートは、多くの皆様にチケットを購入して頂きました。役員会でも同窓会の財産の中から寄付をする事が決まりました。学院の為に協力するという思いをひとつにしてのコンサートは大成功でした。

会員の住所管理は大切な柱です。しか

し、転居等住所不明となられた方をこちらからお調べする事は困難です。会報等届いていない方をご存知でしたら、ご本人からりべるてにご連絡下さる様に是非お伝え下さい。

家政科記念館で行なう講習会は、友井先生のお料理教室をはじめ、ビーズ、ステンドグラス、北欧絵織物、お菓子と国内外活躍されている卒業生に実費のみで教えて頂けるというものです。おひとり参加されてもすぐに皆様仲良くなつて楽しい時間を過ごす事が出来ますので是非ご参加下さい。

恒例のパザーは献品が少なくなっておりますが、役員のアイデアで収益金を上げようと頑張っております。収益金は全額維持協力会に寄付いたしますので、ご協力を宜しく願います。

この一年も皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

お知らせ

来年度は、家政科同窓会りべるてとなり二十年を迎えます。

二〇〇八年三月に記念の会を開催致します。

詳細は、追ってお知らせ致します。

フェリス祭パザー

十一月二日（金）・三日（土）、家政科記念館においてパザーを行います。

パザー当日に販売します日用雑貨品や贈答品等がございましたら、ご寄付くださいますようお願い申し上げます。尚、未使用品で食料品・衣類は除外させていただきます。

●受付期間：十一月一日まで

毎週末曜日 午前十一時～午後三時

●受付場所：家政科記念館

〒三三一七八九〇 横浜市中区山手六八
家政科同窓会りべるて宛
郵送・宅配便でお送りいただいても結構です。

行事予定

●二〇〇七年

十一月二日（金）・三日（土・祝）

フェリス祭参加パザー

午前十一時～

十一月十四日（水）

ステンドグラス講習会

午前十時半～

十二月八日（土）

フェリス女学院同窓会

クリスマス礼拝

午前十一時～カイパー

●二〇〇八年

一月 大森先生お菓子教室

二月 北欧絵織物教室

三月 二十周年記念会

◆特集◆ 家政科記念館

りべるては1989年3月に最後の卒業生を送り出してから18年となります。当時会報「山手68」に掲載された、中島先生、五十川先生の文章は家政科の卒業生に暖かい目差を持って書き下さったものです。しかし私達はどれ程その思いを受けとめて読んででしょうか。

そこで、今回特集として、改めて読む機会を持ちたいと思いました。当時の理事会の議事録も合わせてお読み下さい。

創られつつある歴史

名誉顧問（元学院長・理事長）

中島 省吾



あれからもう式拾年になろうとしていると告げられ、時の流れの速さに驚きつつ、短期大学家政科の発展改組の頃を想いおこしている。

フェリス女学院の、キダーさんの塾から近年までの百三十数年間の歩みは、前に創られたものの上に新しいものが積み上げられて今日に至る、継承と形成の歴史であった。

三学部と大学院とより成る今日のフェリス女学院大学はキダーさんが新しい日本の社会への幻を抱きつつ、少数の幼い少女たちに宗教的・教育的情熱を注ぎこんだ創立当時のキダーさんの学校から、予科・本科、中等部、高等科、高等部、専門学校、短期大学などを経て、それら

の基盤の上に築き上げられた。今日のフェリス女学院はそのようにこれまでの各学校の成長を受けついできた。

その中で短期大学家政科だけが、文学部国際文化学科（そして国際交流学部）に生まれかわる過程で他の学校の場合と異なる形でその歴史を閉じることになった。その頃の短大家政科は、活気に溢れ、内外の評価も高く、入学志願者の増加や財政状態の余裕に支えられて、その存続を強く希望する者が多かった。

それゆえ、その新入学生の募集停止は、理事長・学院長などにとっても、家政科同窓生や当時の学生・教職員にとっても、辛い、心の痛み決断であった。

その中で、五十川学科長も記されているように、「家政科はその最高の社会的評価と共に（中略）華麗な校舎と校地、及び（中略）資金の全てをフェリスの新しい歴史の流れの中に投入し」国際文化学科への発展改組に協力された。

そして、その関係者すべての理解と協力とによって新しい大学への道が開かれた。その過程は五十川学科長の云われるとおり、「歴史を創る」歩みであった。

国際交流学部のその後の歩みは、かつての短大家政科の関係者の想像したものとはかなり異なると云えるだろう。

また、その今後の歩みはさらに異なるかもしれない。その国際性ははるかに広い視野を備え、その社会的関心はかつて

予想しなかった分野に及んでいる。そしてそのような発展の方向はさらに今後拡大されると期待したい。現在も、今後も、歴史は創られ続ける。

（二〇〇七年六月記）

1988年2月25日

理事会議事録より

昭和63年5月18日

同窓会長宛 中島学院長より要望書について「1988年2月25日に開催された1987年度第4回（臨時）理事会において、承認されましたのでお知らせ致します。」との報告があり議事録と一緒に返事をいただきました。議事録より

第7号議案短期大学家政科記念館の設置ならびに短期大学家政科記念事業基金の設定について

中島学院長より、第7号議案資料にもつき、前回の理事会に報告された短期大学家政科同窓会よりの要望に応えるための施策として

(1) 6号館第2別館を短期大学家政科記念館として永久保存し、これを家政科同窓会に使用させること。

(2) 1988年度の決算時に、短期大学家政科の保有資金から支出して、第3号基本金に「短期大学家政科記念事業基金」1億円を設定し、その果実からの支出によって同窓会の諸活動等を支援すること等を骨子とする家政科記念事業を実施すること。

について説明し、提案がなされた。議長は、本提案の承認を諮り、全会一致で承認した。

1988年『山手68』より抜粋

短期大学家政科の 発展改組について

学院長 中島 省吾

1987年12月23日に文部省から、大学文学部国際文化学科の設置を認可する旨の通知がありました。これは、6月末に行ったフェリス女学院からの申請に応えたのですが、短期大学家政科について、1988年度から新入学生の募集を停止し、その在学生の卒業をもって、家政科の歴史に終止符をうつことを前提にしたものです。

短期大学家政科の将来について、家政科教授会の先生方から危機感が表明されるようになったのは、十数年もまえ（宮本元院長の頃）だったと思います。そして、その時に、「被服・食物・保健を中心とする、いわゆる一般家政」中心のカリキュラムを改め、基幹としての衣食住に児童教育、社会経済、情報文化、外国語などの科目を大幅に加え、必修を減らし選択の自由を拡大されました。この変更は、今日の家庭婦人に家庭をこえる広い視野が期待されていること、また、職業的に豊かな教養をもって仕事に取り組むことを望む学生たちが多いことを認識して行われたものといえます。云いかえれば、家庭においても社会においても、新しい時代に即応できる、創造的で、知性豊かな女性の養成を目指していました。

このようなカリキュラムの改訂によって、フェリスでは、他校で家政科の志願者が減るころから、かつて短大家家政科の志願者が増加し、卒業生や入学者の資質について社会から高い評価をうけるようになったといわれます。

私が学院長に就任して間もない頃から、各中学校の将来に対する要望をうかがって、高等教育再編成が計画されることになったわけですが、そのと

きに短大家家政科教授会は、4年制大学への発展改組の要望を提出されました。

しかも、これは、家政科への入学志願者も在学生も4年制の大学でさらに本格的に勉強したいという意欲がとくに高くなっていることを考慮されたものでした。山手地区では、学生の総数は法律によって増やせないことになっているので、4年生大学のプログラムを拡充するには、短大の縮小あるいは廃止を前提とせざるをえません。しかもその際に短大家家政科教授会のご意見として、家政学部あるいは家政学科をつくるよりも、近年の家政科カリキュラムの改訂の方向にそった、新しい学部もしくは学科をつくる方がよいという意見が強く述べられました。そのようなご意見にそって関係者が検討された結果、大学文学部に国際文化学科を設けることになったのです。

大学の文学部国際文化学科は、このような経緯のなかで、家政科が近年目指していた教育の発展改組として誕生しました。また、六号館や家政科の資金の多くを引きつぐことによって、その発足が可能となったといえます。名称的にはつながりが薄いようにみえるかもしれませんが、短大家家政科が近年目指してきた方向をすすめて、生活文化にとどまらず、社会的かつ国際的に広い意味を含んだ文化意識の涵養を目指し、一層開かれた、かつ自由なプログラムへと飛躍したといえましょう。

『家政』という名称が消えることは大変寂しいことですが、「国際文化」という表現のもとに、フェリスの家政教育の伝統が新しい衣を着て再出発したと考えています。

なお、先般、理事会のご理解がえられ、6号館第2別館は、「短期大学家政科記念館」として永久保存する方針が認められました。そして、この建物は家政科同窓会の活動のために貸与されることになっています。

歴史を創る者へ

学科長 五十川 周作

家政科は今年度限りをもってその歴史を閉じます。四年制の国際文化学科として新たな歩み始めるからです。

家政科はその最高の社会的評価と共に山手の一等地に位置する華麗な校舎と校地、及び家政科がこれまで蓄積してきた資金の全てをフェリスの新しい歴史の流れの中に投入しました。即ち家政科は歴史を創る者の側に立ったのです。したがってこの歴史を創ったものは七十名の家政科卒業生だと私は思っています。

真に歴史を創った者が歴史書にその名を現わすことはありません。それが記録と言われるものの性格だからです。しかし事實は歴史の源流に否定すべくもなく存在します。源流なくして如何なる流れも生まれようがないのですから。

新たな歴史を歩み始めたフェリスが何処までそして何時までこのことを覚えてくれるかを私は知りません。

しかし、このこと、すなわち、家政科は歴史を創る者の側に立ったということは、目に見えない家政科の記念碑として、家政科の卒業生が最後の一人になるまで語り継いでもらいたいと思います。

歴史を創る者は自らの生命を新たな歴史のなかに止揚させます。家政科も歴史を創った者の宿命として自らの歴史を閉じなければなりません。しかし母校が無くなったとは思わないでください。校舎も教師もいつかは消えて行くものだからです。母校とは、むしろ、遊びであれ勉強であれ、真摯で純粋であった時代の自分自身と、その自分自身を思い起こして呉れる学友たちへの憶いです。家政科同窓会は、いまや、独立した家政科卒業生自身の集まりです。心おきなく自由が集いつけて学生時代の友情を暖めて下さい。家政科同窓会が家政科の自由な校風を継承してユニークで透明な若さに溢れる集いに育って行くことを期待します。卒業生一人一人のご健康を祈ります。

二〇〇七年度役員

会長	金子 和恵	D 51
副会長	村本とよ子	D 35
書記	小倉由紀子	D 43
書記	北村 周子	D 43
書記	遠藤木美子	D 45
書記	石井 克子	D 43
書記	志村 嘉子	D 47
書記	三浦由里子	D 64
総務	近藤 誠子	D 44
総務	鈴木 初枝	D 44
総務	河合 恵子	D 47
総務	岩江真理子	D 51
総務	堤 あをみ	D 55
総務	佐藤 昌子	D 57
総務	渡辺 晃子	D 40
会計監査	郷 祐美	D 43

友井先生のお料理教室

六月七日、友井先生のお料理教室が開催されました。

お菓子教室で教えていただいたております大森先生もご参加くださり、一卒業生として一緒に楽しく調理されました。

今回のメニューは、ミネストローヌ（イタリア・ミラノ風野菜スープ）とフランス田舎風ミートローフ（キャベツの千切りがたくさん入ります）とグリーンサラダとアイスクリームで、三班に分かれての実習となりました。

お食事の時には、皆様となごやかに美味しくいただきました。



祝 矢吹恵子先生

長年にわたり日本にノルウェーの絵織物を広げた努力に対してノルウェー王国功労勲章と勲記を授与されました。



2007年5月10日、ノルウェー王国大使館にて、グレッドレノルウェー王国大使と共に。

ステンドグラス作りに挑戦！



礼拝堂や、旅先で見たステンドグラス、どれも美しく、その色、技術に心を奪われました。そのステンドグラスを自分で作るなど、思いもよらぬことでしたが、講習会への誘いをいただき、本当にできるのか不安でしたが思いきって参加しました。

クリスマスリースの制作で、ハンダゴテで各パーツをつなぐ、初めの一步は、恐る恐る！次第にリースの型になり、キヨロツと周りを見て、デコレーションやリボンを付けて完成した時のうれしかったことは言うまでもありません。短い時間で仕上がるようにと、ご準備くださった先生のお心づかいと、やさしい励ましとご指導のおかげで新しい体験ができましたことを感謝致します。こわれないように大切に持ち帰りさっそく飾り、”私のが一番！”と思ったのは私だけでしょうか。

企画して下さった役員の方々にも感謝致します。次回は何かと楽しみが増えました。

市川素美子（D41）

（二〇〇六年十一月開催）

■2006年度決算報告書

2006年4月1日～2007年3月31日

科 目	金 額 (円)
収 入	
受 取 利 息	1,007
事 業 費	378,456
名 簿 代 金	10,000
寄 付 金	2,000
小 計	391,463
前年度繰越金	13,540,950
合 計	13,932,413
支 出	
寄 付 金	300,000
交 際 費	20,000
小 計	320,000
次年度繰越金	13,612,413
合 計	13,932,413

繰越金明細	
定期預金(横浜銀行)	6,283,672
定期貯金(日本郵政公社)	2,635,109
定額貯金(同上)	3,012,000
通常貯金(同上)	1,302,151
通常貯金(同上)	378,456
普通預金(横浜銀行)	0
現 金	1,025

■2006年度決算報告書

2006年4月1日～2007年3月31日

科 目	金 額 (円)
収 入	
基金運営費(学院より)	2,594,986
合 計	2,594,986
支 出	
消 耗 品 費	77,494
旅 費・交 通 費	345,680
通 信・運 搬 費	1,133,835
印 刷・製 本 費	906,116
報 酬 手 数 料	1,525
会 議 会 合 費	18,036
諸 会 費	70,000
渉 外 費	13,800
雑 費	19,500
修 繕 費	0
事 業 費	0
寄 付 金	0
合 計	2,594,986

収入－支出	0
-------	---

■2007年度予算

2007年4月30日

科 目	金 額 (円)
消 耗 品 費	80,000
旅 費・交 通 費	350,000
通 信・運 搬 費	1,210,000
印 刷・製 本 費	910,000
報 酬 手 数 料	2,000
会 議 会 合 費	50,000
諸 会 費	70,000
渉 外 費	180,000
雑 費	10,000
修 繕 費	0
事 業 費	0
寄 付 金	0
合 計	2,862,000

会長 金子和恵
 会計 志村嘉子
 石井克子
 河合恵子

監査の結果、相違ないことを確認致しました。
 監査 2007年4月11日

渡辺晃子
 郷佐美

フェリスグッズ

- 本革ブックカバー 文庫用
(エンジ・キャメル)
各 2,500円
- エプロン
(黒・赤・茶・紺・ピンク)
各 2,000円
- ハンドタオル
(ピンク・クリーム・水色・黄緑・白)
各 450円
- スプーン フォークセット
500円
- 申し込み先
家政科同窓会りべるて
Tel・Fax
(045) 662-0750

追悼 弓削達先生



静岡県熱川で静養しておられた弓削達先生は、二〇〇六年一〇月一四日召天されました。先生は古代ローマ史研究の第一人者で東京大学名誉教授、フェリス女学院大学名誉教授でありました。フェリス女学院大学では八年にわたり学長を勤められ、この間、同大学の国際文化学科新設、大学院研究科の設置などに尽力されました。

「追悼 弓削達先生」

文学部教授 藤江 峰夫

弓削先生は、柴田三千雄先生と同期でフェリスに来られました。着任されてしばらくたった頃、お二人とお話をしていた、私たちが驚嘆したことがありました。それは、お二人がフェリスの歴史について、私たちよりもはるかに詳しく知っておられたことでした。弓削先生は敬虔なキリスト者であ

られたので、フェリスについてご存知なのは当然かとも思いましたが、実は着任以前にフェリスの『100年史』を精読されていたということを、私たちはその時初めて知りました。まさに歴史家の面目躍如というところでしょう。

ローマ史が専門の先生は、ローマ帝国の興亡を見通す目をもって、現在の日本の現状とその行く末を考察して警鐘を鳴らすという社会的な活躍をされましたが、本学の学長としては、日本という国の中にフェリス女学院大学が置かれているということの意味、その使命について深く考えておられました。

英文と日文(当時は国文学科)二学科の文学部に国際文化学科を加えて三学科とし、短大の音楽科を音楽学部に変更して二学部構成としたのは、弓削学長の代のことです。また、国際文化学科を基にして国際交流学部が発足したのは、弓削先生がご退職なさった年のことでした。日本の中にありながら世界を見据えるというフェリスの伝統を確固たるものとして大学の中に位置づけ、幅広い教養を身につけた有為の人材を社会に送り出す、というのが弓削先生のお考えであったと思います。

フェリスのために尽くされた功績もさることながら、誰にでも気さくに声をかけられ、誰からも敬愛され、周囲の人々を明るく包み込んでいた先生のお姿が、今でも目に浮かびます。

弓削先生、ありがとうございました。願わくば、フェリスの前途が弓削先生の意味を継ぐものであらんことを。



同窓会支部だより

東京支部

東京支部は十月に開催する総会を中心に初春歌舞伎観劇、気仙先生御指導の研究会、「ビデオによるオペラ鑑賞」を定期的に続けております。その他、近郊の散策や、マナー、お料理作りを学びながらの食事会など楽しい集まりを行なって参りました。フェリス同窓会の親睦を深めつつ、これからも何かを学び、知らないことに合ったりして、心に残る時を持ち度いと考えております。

秋の行事のご案内をさせていただきますと、十月五日(金)、十時三十分より浜松町東京会館において総会を行ないます。午後の講演に国際基督教大学のツベタナ・クリステフ教授をお招き致しました。日本の古典文学をご専門になさるブルガリア出身のツベタナ先生は、「枕草子」や「源氏物語」などを読み解かれ、独自の見解を展開なさっていらっしゃる方です。どのようなお話を伺えるか楽しみです。十一月半ばには「蔵の町」と言われる川越へ、文化財や史跡など訪ね度いと計画しております。名物さつま揚げも料理もいたたくつもりです。是非ご参加くださいませ。会員以外の方のご出席も大歓迎でございます。関心がお有りの催しが見つかりましたらどれか一つにでもおいでいただければ嬉しく存じます。役員一同、皆様にお会いする日を楽しみにしております。

《連絡先》

大川清子 03-3332-1126 87
高間美鈴 03-33775-6279

関西支部

昨年の関西支部同窓会は、秋晴れの良き日11月8日に、大坂城にほど近い元個人のお屋敷だった、広大な庭園のある「太閤園」で、美しいお庭を愛でながら、例年にも増して47名の方々が御参集されました。ご高齢にもかかわらず、美しい和服姿で御出席くださいました大先輩に、古き良きフェリスの懐かしさをおぼえ、また旧寮生の還暦のお祝いにと、関西の同窓生を中心に、遠路はるばるお集まりくださいました美しい熟女たちの御参加も、この集いに華を添えてくださいました。

昨年はモーツァルト生誕250年を記念して、日本中でこの偉大な作曲家の誕生にちなんだ催しが行われました。そこで当関西支部でも、それにあやかると申しますかFグラーブアンサンブル並びに関西在住のバイオリン科の有志の皆様による「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」の演奏をしていただくことになりました。その美しい音色に耳を傾け、さらに一同で「アヴェ・ヴェルム・コルプス」や校歌を、優美な弦楽合奏の伴奏で歌い、宴は盛り上がりしました。同じ学窓にいまいた頃の人間関係にあつというまにに戻り、思ひ出深いひと時を皆様過ごされた事と存じます。

今年の同窓会も、11月の第2水曜日に神戸を予定しております。関西の方はもちろん、他方面の方々もどうぞご参加くださいませ。

《連絡先》

岡本敦子 FAX 0797-3510940 まで

- ニューヨーク事務所
Mrs. Rakuko Kuwayama
136 West 24 St. New York, N.Y. 10011 U.S.A.
TEL 212-675-3840
- ハワイ事務所
Mrs. Chizu Hatakeyama
3043 Hollinger St. Honolulu, HI.
96815-4211 U.S.A.
TEL 808-735-1296 FAX 808-735-1579
- カリフォルニア事務所
Mrs. Junko Yokota
3117 Mabury Rd. San Jose, CA. 95127 U.S.A.
TEL 408-923-4632 FAX 408-729-5669
- ロンドン事務所
Mrs. Reina Shimizu
121 B Ashfield St. London E1 3EX, U.K.

●同窓会は外国にもあります

●フェリス女学院同窓会主催 クリスマス礼拝のご案内

《 日 時 》

2007年12月8日(土)
午前 11時～12時

《 場 所 》

カイパー記念講堂

《 説教者 》

フェリス女学院 中高宗主任

野田 美由紀先生

* フェリス女学院全同窓会主催
皆様、どうぞご参加下さい



2006年度 フェリス女学院同窓会連絡会 会計報告 (2006年4月1日～2007年3月31日) (単位 円)

前年度繰越金	653,807
収入	
全同窓会維持費 (70,000×4)	280,000
利 息	400
小 計	280,400
合 計	934,207
支出	
各支部 (東京、西南、関西) へ祝儀 (含、郵送料)	61,060
クリスマス礼拝関連費	89,165
備品購入	518
合 計	150,743
翌年度繰越金	783,464

翌年度繰越金は、783,464円です。

以上、ご報告申し上げます。

2007年5月10日 会計 りべるて 小倉 由紀子

クリスマス礼拝(2006年) 献金先

献金総額	130,984円
日本ユニセフ協会	32,746円
日本キリスト教海外医療協力会	32,746円
難民を助ける会	32,746円
社会福祉法人日本医療伝道会	32,746円

西南支部

主に感謝致します。

同窓生の皆様にはご健勝にお過ごしのことと存じます。

昨年の西南支部同窓会総会は、十一月二日(木)に、音楽科十回生の声楽家の大庭照子さんをお招きして、福岡の「聘珍楼」にて開催いたしました。

楽しいお話しと、ミニ・コンサートが計画されました。艶のあるしっとりとした素敵な歌声に感動致しました。時を忘れて、楽しくお話しが弾みました。

四十名の出席者の皆様それぞれ、その科を越えて、年代を越えてお交わりが出来ますことは、この上なく感謝と喜びです。更に、その輪が広がって行きますことを期待致しております。

当番幹事のH2卒の大神薫子さん、S61卒の水江篤子さんのお働きには心より感謝でした。大変お世話になりました。盛会に終わりましたこと感謝です。

“For Others”の志の如く、その精神と共に、同窓会活動において一人でも多くの方々が関心を持って下さいますことを、祈るばかりです。今年も同窓会総会を秋に予定しております。役員の方々と始め幹事の皆様の温かいご協力に感謝しつつ、準備を進めております。

今回は当番幹事を家政科の方々にお願いし、お世話になります。皆様どうぞお誘い合わせの上、ご参加下さいます様お願い致します。素晴らしい母校に連なる卒業生として、喜んで感謝してお役をさせて頂き戴きます。

支部長 伊藤和子(音楽科24期卒)

白菊会より

白菊会は役員が交代いたしました。会長は服部ひろ子、副会長は西谷洋子と衛藤怜子です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年も同窓会ができて百年。一九〇七年、ブース校長のときに、在校生・教職員・卒業生のみなが集う会として誕生いたしました。関東大震災後に在校生の学友会と卒業生の同窓会が別れ、一九八三年からは短大、大学、高等学校の同窓会が独自に活動をするようになりました。

それでも私たちは一つのフェリスファミリーです。紫陽花は満開に近く、中庭のイングリッシュデージーもまだ花を残している六月二日、短大、大学からもご出席頂き、オールフェリスの「百年記念白菊会総会」をカイパー記念講堂で無事行うことができました。みなさまに心から感謝申し上げます。

今年から二年間、白菊会は同窓会連絡会のお当番を勤めさせていただきます。十二月八日(土)の全同窓会クリスマス礼拝は久しぶりにカイパー記念講堂で行われますので、みなさまどうぞお出かけください。

白菊会主催のカイパーサタデーコンサートは来年三月の予定です。詳しくはまたご案内いたします。こちらもぜひお出かけください。



サークル紹介

聖書を学ぶ会

お話し 気仙三十一先生
日時 第二木曜日 十時半～十二時
十二月は第三木曜日 クリスマス会
場所 中高同窓会室
連絡先 杉浦 昌子(S26)
〇四五(三三五)一一〇五

書道サークル

初心者の方でも気軽に入会できます。
日時 第四木曜日 一時～四時
場所 大学(山手)六号館別館二階
連絡先 望月幸子(S6E)
〇三(二七二七)九一八五

デジ・グリークララ

指導 田中 順先生
日時 月二回水曜日 一時半～三時
場所 白菊会同窓会室
連絡先 鈴木道子(S41)
〇四五(九三三)七六〇三

英語読書会

指導 吉野洋子先生
日時 第三水曜日 十時半～十二時
場所 中高同窓会室
連絡先 伊藤 眞美
〇四六七(四三三)〇八九九

世界史講座——キリスト教と世界史——

講師 棟居 洋先生
日時 第三木曜日 十時半～十二時半
十二月はお休み
場所 中高同窓会室
連絡先 数原安子(S48)
〇四五(四三三)五六九九



大学音楽学部演奏会のお知らせ

- ◆12月14日 第28回クリスマスコンサート 神奈川県立音楽堂
クリスマスオラトリオ(4～6部)
出演 指揮:小泉ひろし
Sop.西由起子、Alt.田中奈美子、
Ten.蔵田雅之、Bas.土屋広次郎 他
開演 18:30
- ◆'08年3月6日 第17回「メサイア」 神奈川県立音楽堂
出演 指揮:小泉ひろし
Sop.平松英子、Alt.田中奈美子、
Ten.蔵田雅之、Bas.星野 聡、
Cemb.浅井寛子、Org.宇内千晴
開演 18:00
問い合わせ:演奏委員会室 TEL 045-681-5189

Fグループ演奏会のお知らせ

- ◆9月24日(月・祝)
ジョイント・コンサート フェリスホール
～ピアノ、ヴァイオリン、ソプラノによるコンサート～
開演 14:00 料金 ￥2,000
- ◆10月8日(月・祝)
研修会 小さき星 はるかな空 フェリスホール
武久源造氏によるオルガン等の演奏とお話
～ソプラノ松堂久美恵さんと共に～
開演 14:00 料金 ￥1,000
- ◆11月8日(木)
ティータイムコンサート 山手6号館632教室
講師:白井貴子(31回)
内容:未定
開演 14:00 料金 ￥1,000
問い合わせ:Fグループ事務局 TEL 045-681-6740
※詳細はP.7に掲載

永眠者(お届けのあった方)

大学名誉教授

弓削 達先生 二〇〇六・十・十四

Fグループ

古谷 美江姉(7M) 二〇〇五・九
三宮 康子姉(3M) 二〇〇六・八・二七
伴野さち子姉(21M) 二〇〇七・四・四
大岡 妙子姉(4M) 二〇〇七・六・二四

りてら

加藤真由美姉(71E) 二〇〇二・六
鯨岡美智子姉(85J) 二〇〇四・六・一五
山野井智里姉(05J) 二〇〇六・三・四
津田 理枝姉(83J) 二〇〇六・二・二六
信田 俊子姉(64E) 二〇〇六・二・三
堤 順子姉(62E) 二〇〇七・二・二二
りべるて

神田美和子姉(D33) 二〇〇五・三
竹中 栄子姉(D52) 二〇〇六・九・一四
倉重 厚子姉(D48) 二〇〇六・九・一四
村尾 順子姉(D33) 二〇〇六・一〇・二二
土地川千代子姉(D31) 二〇〇七・二・二二
天来の慰めをお祈りいたします。

大学祭

FERRIS FESTIVAL 2007

テーマ: Ferris de chocolat

～魔法のような時間を過ごしました～
開催日時:十一月三日(土)・四日(日)
十一時～二十時(両日)出店は十七時まで
開催場所:緑園キャンパス

教職センターからのお知らせ

昨年度より教職についていらしやるOGの方々のメーリングリストを始め、輪が少しずつ広がっております。
さらに求人情報の交換の場も作るうと、今準備をしております。常勤でも非常勤でも結構ですので、何か情報がありましたらまたからでもお願い致します。

また『二〇〇六年度教職センター報告』(B5版、全60頁)を刊行しました。フェリスの教職課程の歴史と現状がコンパクトにわかる創刊号です。入手ご希望の方は一報下さい(送料無料)。
以上についてのご連絡は教職センター宛にお願い致します。

フェリス女学院大学教職センター

FA X〇四五・八二一九四七三

メールアドレス kyoshyokun@ferris.ac.jp

編集後記

今年も無事会報をお届けできる事を、感謝いたします。編集にたずさわること、たくさんの方々の素敵な方々との出会いがありました。フェリスで学んだという共通の経験は、私たちがつなげてくれます。「人にしてもらいたい」と思うことは何でも、あなた方も人にしなさい。皆様の実践にお礼申し上げます。協力の実果をここに捧げます。

フェリス女学院大学同窓会会報

二〇〇七年八月発行

担当:家政科同窓会りべるて

Fグループ 〇四五(六六二)〇七五〇
りてら 〇四五(六八二)六七四〇
〇四五(八二二)八六九二